

施設名	静岡市両河内生涯学習交流館			所在地	静岡市清水区和田島171-1
所管部署	静岡市生涯学習推進課	HP	https://www.sgg-shimizuku-shizuoka.jp/	電話番号	054-395-2311
				SNS	https://twitter.com/ryougouchisgk



○施設外観・事業風景



○事業等の実施状況(『特色ある活動』であげた事業以外で2つ)

※令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響あり

区分	事業名	開催回数	延参加者数	区分	事業名	開催回数	延参加者数
<input type="checkbox"/> 主催 <input checked="" type="checkbox"/> 共催	子育てが楽しい両河内に	3回	26人	<input checked="" type="checkbox"/> 主催 <input type="checkbox"/> 共催	子ども英語教室	3回	19人
事業概要(共催先も記載)				事業概要(共催先も記載)			
地域住民とともに「子育てが楽しい両河内」にするための講座を企画。やってみたいことを提案した。また困りごとなどを整理し、参加者と共催団体の方々と協議し、解決の方法等を考えた。				小学校で必須科目になった英語を、苦手意識にならないよう低学年のうちに触れ、親しんでもらおうと、身近な動物や食べ物、挨拶などを楽しく学んだ。学校終わりに歩いて交流館に来て参加できるようにした。			



○施設概要

施設の沿革・年表				施設の運営で大切にしている考えなど(PRポイント等を含む)	
・昭和36年 清水市両河内公民館 ・平成10年 優良公民館等文部科学大臣賞受賞 ・平成15年 静岡市と清水市合併、新静岡市誕生 ・平成20年 公民館から生涯学習交流館へ移行 ・平成24年 指定管理となる ・平成28年 木造平屋建施設完成 移転・開館				両河内生涯学習交流館は、地区の産業や豊かな自然を活かした事業に取り組んでいます。また地域の方々には、まちづくりの拠点としてとして子供からお年寄りまでが生涯学習や地域交流の場として親しまれています。少子高齢化が進む地域ですが、各種団体と協力しつつまでも住み続けられる両河内でいられるよう、まちづくりにも力をいれています。	
市町人口	679107人			施設対象人口	2541人
建物設置年月日	昭和36年10月1日 平成28年3月16日(改築)			開館日数 (前年度実績)	315日
運営主体	<input type="checkbox"/> 市町教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (清水区生涯学習交流館運営協議会) <input type="checkbox"/> 市町首長部局 <input type="checkbox"/> その他 ()				
職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 6人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 合計 6人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人				
講座等開催数 (前年度実績)	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 78回 <input type="checkbox"/> その他 0回 合計 78回 <input type="checkbox"/> 講演会・展示会等 0回				
来館者数 (前年度実績)	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2229人 <input type="checkbox"/> 貸館・サークル活動 11659人 合計 13888人 <input type="checkbox"/> 講演会・展示会等 0人 <input type="checkbox"/> その他 0人				

施設名**静岡市両河内生涯学習交流館**

○特色ある事業

1. 事業名

中河内の在来大豆「ここ豆くん」づくり

2. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

中河内で栽培されてきた大豆は在来大豆と認められ「ここ豆くん」と名付けられた。平成30年度から2年間、両河内地区連合自治会と清水区役所が協働して中河内地区を中心に「地域資源の掘り起こしによる地域コミュニティの活性化」と称し、まちづくりに取り組むこととなり、その活動の中心となったのがここ豆であった。交流館としても、地域活性化を目指し、まちづくりにつながるよう、令和元年度より交流館と地域との連携で開催している。

3. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

在来大豆の理解を深めるとともに、農作業体験を通して自然と触れ合い交流を深めることを目的に、種まき、草取り、枝豆収穫・試食、大豆収穫、調理の5回講座で開催している。調理は毎年同じにならないよう企画している。令和4年度は講座の様子等をまとめた動画を作成し、清水区生涯学習交流館運営協議会のYouTubeチャンネル、ホームページ、Twitter、Facebookで公開した。

4. 参加対象、参加者数（前年度実績）

参加対象	どなたでも	参加者数	20人
------	-------	------	-----

5. 取組による成果や効果

参加者から「初めて知った」、「種まきから食すまでトータルで行うことで、ここ豆について深く学ぶことができた」、「とてもいい企画なので継続してほしい」、「アットホームな感じでよかった」と高評価だった。子どもたちは「自分で育てて、食べる」を体験でき、食育にも繋がった。

6. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

令和4年度はドローンによる動画の作成を行い、ここ豆栽培の全容を市民に紹介することができ広報の充実を図れた。改善については、より多くの市民に参加してもらうため、地元農家と協力を深め栽培する規模を拡大し、参加者を増やし普及に努めたい。

**7. 今後の目標・展開、次の仕掛け・ビジョン**

地産地消や地域活性化につながる、ここ豆を使ったスイーツの開発。

両河内小中学校から学校として参加したいとお話をいただいた。子どもたちが地域の在来作物を知る機会になり、食育にもつながることから、講座として継続していきたい。